

②武蔵中原から二ヶ領用水・渋川の桜を訪れる 資料

催行日：4月3日（水）

行程：武蔵中原駅→長福寺→神明神社→常楽寺（まんが寺）→春日神社→二ヶ領用水→高顔寺→泉澤寺→渋川→住吉神社→元住吉駅（疲れた人は、小杉御殿町交差点から武蔵小杉駅に向かう）

長福寺

長福寺は、戦国時代以前の創建と思われる。玉川八十八ヶ所霊場めぐりの二十五番である。



因みに玉川八十八ヶ所霊場とは、旧荏原郡・橘樹郡・都筑郡・多摩郡世田谷領の4ヶ郡からなる八十八ヶ所霊場である。

本尊は大日坐像 1尺2寸くらいで作者は不明、薬師は行基の作で秘佛と言われている。

行基（ぎょうき）は奈良時代の僧で、広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。だが、朝廷が定めた以外の直接の民衆への仏教の布教活動を禁じた時代に、禁を破り布教を行ったことで朝

廷から弾圧や禁圧される。逆境を跳ね返し大僧正（最高位である大僧正の位は行基が日本で最初）となり、奈良の大仏造立の功績により東大寺の「四聖」の一人に数えられている。

神明神社

上小田中の神明神社の創建年代は、宝永年間（1704-1710）に創建したといわれている。

神明社は、かつて村の中央にあり村の鎮守として多くの崇拝者を集めていた。

総本社は、伊勢市の皇大神宮で、ご祭神は大日靈貴尊（おおひるめむち）〔別名〕天照大神である。



常楽寺（まんが寺）

常楽寺は、真言宗智山派の寺で、今から1000年ほど前の奈良時代に聖武天皇の祈願所として開基された。境内は沢山の珍しい樹木に囲まれて野鳥の極楽地だった。

元禄二年に再建された本堂は、1967（昭和42）年に解体修復工事が行われた。完成した

1968（昭和43）年が明治100年だったことから常楽寺に縁のある35名の漫画家のうち生き残った漫画界の大先輩が音頭を取り本堂65坪を漫画で一杯にしてやろう自分の描いた作品を奉納してくれた。その数400人、2000点以上。このことに喜んだ住職がお寺に「まんが寺」という愛称を付けたのだという。日本で唯一のまんが寺で、川崎市で唯一の重要史跡と天然記念物に指定されている。



それらの作品は、弘法大使の絵電気や明治元年から昭和までの歴史世相を楽しく描かれており、「童心」

「明治」「大正」「昭和」の間に分かれた本堂のふすまや壁に所狭しと貼り付けてある。

常楽寺と漫画家と縁は、太平洋戦争に遡る。

太平洋戦争が始まって2年後の1943年、老大家から新進まで約80名の漫画家を会員として日本漫画奉公会が結成された。その中の35名が川崎市電の建設勤労奉仕に駆り出され、勤労者の似顔絵を描いたところ評判を呼んだ。漫画家も戦力になると各所巡り優良産業戦士の似顔絵を描き、お米の供出の良い農家に漫画の色紙を贈った。

このお先棒を担いだのが常楽寺の住職・土岐秀宥（ときしゅうゆう）であった。お説教が苦手な住職は、漫画の説教力に魅せられ漫画の虜になった。その縁で漫画家との交流が築かれたのである。

土岐秀宥（ときしゅうゆう）

住職になる前は、大政翼賛会川崎支部に勤務していたサリーマンであった。住職はテレビに出演する事4、50回にもなり、有名人であった。

「日本のまんがの元祖は、平安時代の鳥羽僧正の描いた鳥獣戯画です。だから私はまんがを寺に置くことにしたんです。現代の劇画は置きませんよ。まんがは、ユーモアと風刺と芸術性のあるもののことを言うのです。今の劇画にはそれがありませんからねえ」と住職は語っている。

常楽寺には、川崎市の重要歴史記念物に指定されている「木造聖観世音菩薩立像」、「木造釈迦如来坐像」及び「木造十二神将立像」が所蔵されている。これらは何れも室町時代前期の作である。



本尊は観音像で、900年も昔のもの。像高 62.5cm、寄木（よせぎ）造、彫眼、素木の小像だが、丸く穏やかな面相や簡素な衣文（えもん：着付の方法のこと）の表現がされている。

釈迦像は、像高 84.6cm、寄木造、玉眼（ぎょくがん）で、低めの頭髪部や彫りの浅い衣文の表現がされている。

十二神将像は、像高 88.6～99.5cm、寄木造、玉眼で動きのある姿や誇張された顔の表現がされている。

勾玉は、硬玉製で、最大長 3.6cm、最大幅 1.9cm、最大厚 1.2cm、最大孔径 0.6cm をはかる大形の優品である。出土地点は春日神社背後の禁足地。



北沢楽天は、我が国近代漫画の始祖である。楽天以前は、漫画という言葉も今日的意味では使われていない。楽天は漫画家であると同時に、偉大な教師であり世の木鐸であった。



「よろしく漫画をもって生涯の仕事とせよ」との福沢諭吉翁の言葉をそのまま実践し、漫画に生き、漫画に殉じた純粋の一人であった。

楽天が描く「時事漫画」コーナーは大人気で、当時「ポンチ絵」や「おどけ絵」と呼ばれ評価の低かった風刺画を、きちんとした絵と内容で大人から子供まで楽しめる「漫画」へと発展させました。

昭和4年から5年頃、楽天は53才で当時まだ珍しかった欧州周遊旅行に出かけ、外国の様子をカラーで描いた漫画は多くの人の目を楽し

ませた。

楽天は72才になり、先祖代々の土地である大宮に「楽天居」を構え、好きな日本画を描いて悠々自適な生活をおくったが、79歳で病気のため突然世を去った。

岡本 一平は、漫画家で作詞家の父親である。東京美術学校西仕事に関わる。その後、夏目漱石され漫画記者となる。朝日新聞をた漫画漫文という独自のスタイルを画した。また、それまで絵にみ「4コマ漫画」を生み出した。「俯瞰による描写」などがある。



妻は小説家の岡本かの子。画家・岡本太郎洋画撰科を卒業後、帝国劇場で舞台芸術のから漫画の腕を買われて朝日新聞に紹介中心に新聞や雑誌で漫画に解説文を添えルを築き、大正から昭和戦前にかけて一時添えられていた漫画に起承転結を持ち込その他に「クローズアップ」「視点の移動」



亀甲竹は、孟宗竹の突然変異で、棹の枝下部分の節間が交互に膨れており節が斜めとなった竹である。観賞用に植えられ開花は希少である。日本国内では2017年時点で、1966年の京都市下京区の例と、2017年9月の伊東市の2例しか記録されていない。尚、筆塚の書は、徳川無声筆である

春日神社

春日神社は、創建時期ははっきりしないが、承安元年（1171）につくられたと推定される。

この地域に春日新宮と呼ばれていた神社や新御願寺があった。春日新宮は、稲毛荘の荘園領主である九条家（藤原北家流で五摂家の一つ）の氏神である奈良春日大社を、稲毛荘が成立したときに分祀したものと考えられ、春日神社の前身にあたる。



春日神社には、県の重要文化財に指定されている鱧口（わにぐち）が伝えられている。鱧口は径30cm、厚さ10cmの銅製で、応永10年（1403）に藤原氏景・繁森によって铸造され、春日宮に奉納された。なお、現在は近くの市民ミュージアムに所蔵されている。

また、神社本殿の裏側はシラカシ、アカガシ、ケヤキなどの常緑樹が鬱蒼と繁る鎮守の森（県指定天然記念物）となっており、その一角には古墳の石室が保存されているほか、勾玉も発見されているので、この地は古代よりの歴史を秘めた貴重な土地として市の重要史跡に指定されている。

ニヶ領用水

ニヶ領用水（にかりょうようすい）は、1611年（慶長16年）に徳川家康の命を受けて小泉次太夫の指揮の基、14年の歳月をかけて完成させた用水である。当時は、機械など全くない時代。ひたすらクワやスキで土を掘り、モッコに入れて運び土手を造った。農民の血と汗を流して造り上げた。

ニヶ領用水は、多摩川などを水源とし、川崎市多摩区（上河原堰・宿河原堰）から川崎市幸区までを流れる全長約32km（宿河原の支流を含む）の神奈川県下で最も古い人工用水路



で正確に分水されている。

である。かつては近隣の農業を支えた二ヶ領用水だが、時が流れ高度経済成長により急激に都市化が進み、工業用水などに使用目的が変わった。

二ヶ領用水は、各々西から根方堀、川崎堀、六ヶ村堀、久地・二子堀と呼ばれる4方向に分岐するため、久地円筒分水により各堀の灌漑面積に応じた一定の比率

高願寺



高願寺は、新田義貞の子義興、義宗らが上野で兵を挙げ鎌倉へと進み後、足利尊氏との鎌倉争奪戦の戦乱の影響を市内で被り、その家臣の霊を弔うための草庵として始まった。時期は、二ヶ領用水の開削の頃にあたる1603～1609（慶長8～14）年の直前であった。

本堂は、1753（宝暦3）年に焼失、翌1754（宝暦4）年3月に上棟したが、再び1982（昭和57）年2月、火災により本堂は焼失し、1987（昭和62）年に再建されたものである。この時、造作したお釈迦様

の一生が本堂の欄間に金色に輝いている。

また、2005（平成17）年、寺号を「高元寺」から江戸時代中期ごろまで名のっていた「高願寺」に改称した。

高願寺は、阿弥陀堂領として江戸幕府より賜わったもので、帯刀を許されていた家来もいたところから俗称「侍寺」とも呼ばれていた。また、高願寺は、中原街道沿いの西明寺、泉澤寺とあわせて、江戸幕府の小杉御殿の守り固めの役割も果たしていた。時には用水をめぐる利水、地境の争いの調停役に住職があたることもあったという。

至心学舎（しんしがくしゃ）は、1873（明治6）年、「宮内学舎」と名づけられた川崎市で最も古い寺子小屋である。授業料は、1ヶ月4銭6厘で男15人女38人計53人の生徒が学んでいた。のちに、「宮内学校」と改称され、1901（明治34）年「小杉学校」「丸子学校」とが合併されて「尋常中原小学校」が創設された。

つまり、高願寺は、宮内の学校教育の発祥の場なのである。現在は、仏教や浄土真宗について学ぶカルチャーセンター、音楽会、ヨガ教室などを開催している。



泉澤寺

泉澤寺は世田谷領主・吉良家の菩提所として延徳 3 年（1491）に多摩郡烏山の地に創建されたが、その後焼失した。天文 19 年（1550）、吉良は上小田中の現在の地に泉澤寺を移して再興した。その後、延享 2 年（1745）に罹災し、安永 7 年（1778）に今の本堂を上棟した。



早くからこの寺は要塞化していったようで水堀もあった。今は近くを流れるニヶ領用水が、水堀の名残である。

寺地のある上小田中は古くから開発され、中世には稲毛荘の中核を成し、市域ではもっ

とも農業生産力の高い地域の一つでした。

また、門前を通る中原往還は、戦国時代から近世前期にかけ、江戸と相模方面を結ぶ幹線で、渡河点近くに上述の上丸子山王社があり、近くには近世初頭に小杉御殿や代官陣屋が設けられるなど、多摩川を控えた政治・交通上の要地でもあった。このため徳川幕府も泉澤寺へ朱印 20 石を与えてこれを保護した。

現本堂は 240 年前の安永 7 年（1778）の再建で、入母屋造（いりもやづくり）銅板葺。内陣部分は小壁（こかべ）・頭貫（かしらぬき）より上に彩画・彩色を施し、荘厳な空間を構成している。

また、境内にある鐘楼は、敵の侵入を防ぐ番屋を兼ねていた。

住吉神社

住吉神社は元、矢倉神社と言っていたが、明治四十二年村内鎮座の、伊勢宮、八幡社、子之神社、八雲神社、春日神社、天神社、白山神社、稻荷社、諏訪神社、神明神社の十社を矢倉神社に合祀し、村名を取り住吉神社と改称した。

大正末の東横線開通に始まり、数度に渡る駅拡張工事により、境内は往時の半分程になってしまった。現在の社殿は昭和三十四年に改築したものである。

